

TIA、一過性脳虚血発作とは？

TIAは、Transient Ischemic Attackの略です。

脳に行く血液の流れが悪くなって（脳虚血）、いろいろな神経症状が出現しますが、24時間以内（多くは20分以内）に症状が消失する発作です。

症状は、片側の手足や顔のまひなどの運動障害、しびれや感じ方が鈍くなるなどの感覚障害、ろれつが回らなかつたり、ことばがでなかつたりする言語障害、片方の目が見えにくくなる視力障害（一過性黒内障）、片側にあるものが見えなくなる視野障害（同名性半盲）などいろいろです。

症状は、数分から十数分で消えることが多く、『おかしいな？』と感じても、気のせいだろうと、見過ごしがちになります。

ところが、症状が消えたからと言って安心してはいけません。TIAを発症した人は様子を見ている間に脳梗塞を起こす確率が高いので、直ちに検査を行い、治療を開始することが大切です。脳梗塞の予防の決め手になります。TIAを放置した場合、3～4割はその後に脳梗塞を起こすことがわかっています。そのうちの3分の2は、TIA発症後3カ月以内に脳梗塞を発症しています。

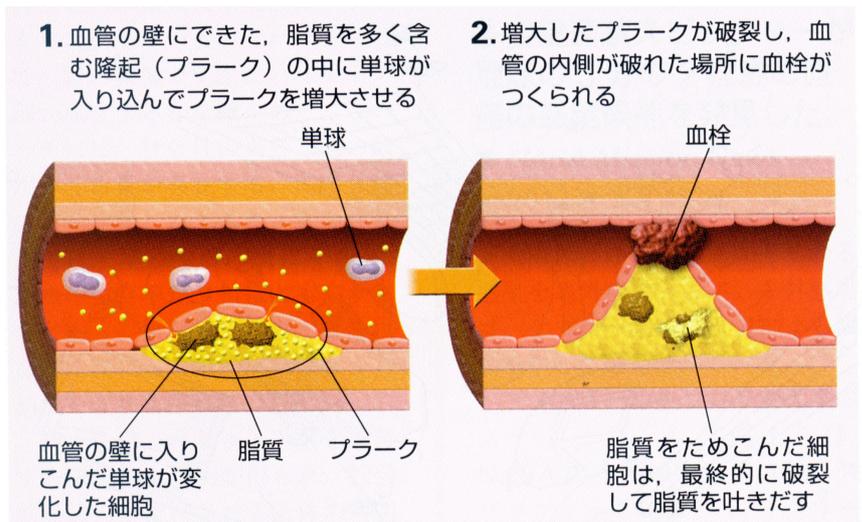
すなわち、TIAは脳梗塞の前ぶれとして非常に重要な、緊急を要する症状です。

なぜ、TIAがおこるのでしょうか？

図（右）は、「動脈硬化から血栓ができるしくみ」です。

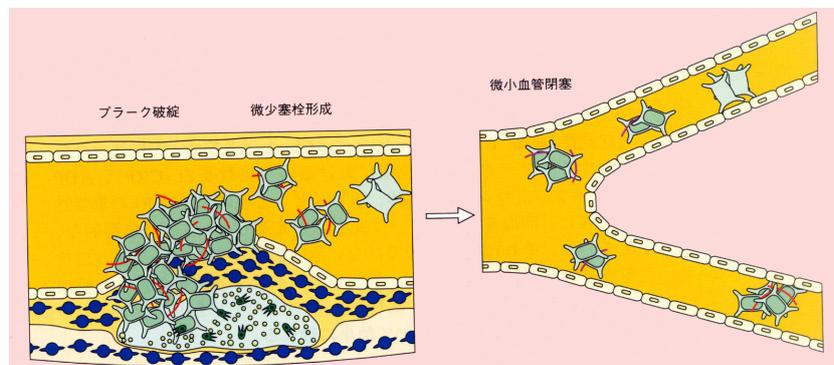
この場合には、血管は完全に閉塞し「脳梗塞（脳血栓）」となります。

このような動脈硬化が進んだ動脈（例えば、頸動脈）にたまった「プラーク」の上にできた血栓がはがれて、末梢に流れて動脈を詰まらせることがあります。このほかに、心臓でできた血栓が流れて脳の血管を詰まらせることもあります。この様な場合は、「脳塞栓」と言います。

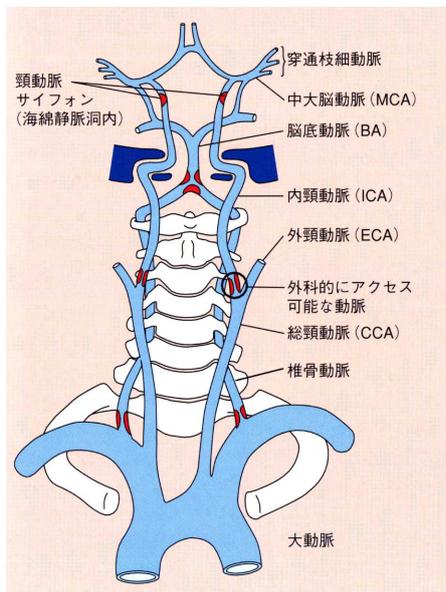


動脈硬化を伴った血管では、血管内皮細胞が障害された初期の段階で血小板が凝集されやすくなります。そして血小板が凝集して一次血栓（血小板血栓）が形成されます。

血小板血栓（微少塞栓）は、不安定で剥がれやすく、血流により末梢に流れより細い動脈を詰まらせ神経症状を生じます。しかし、血栓が詰まっても、自然に溶けたり流れ去ったりすることがあり、その場合、症状はただちに改善します。この状況が TIA と考えられています。



この状況が TIA と考えられています。



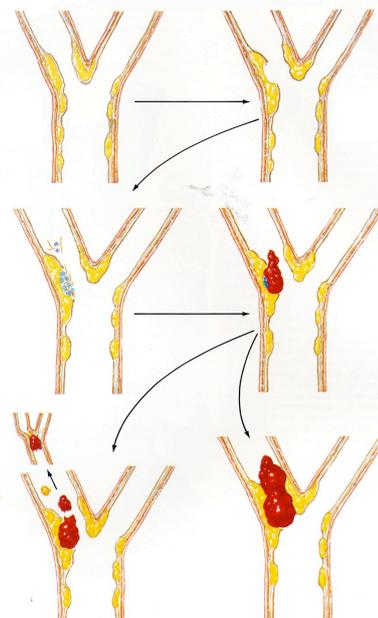
図(左)は、血管壁に動脈硬化を生じやすい部位を示します。

首の総頸動脈が内頸動脈と外頸動脈へ分岐する部位もその代表です。

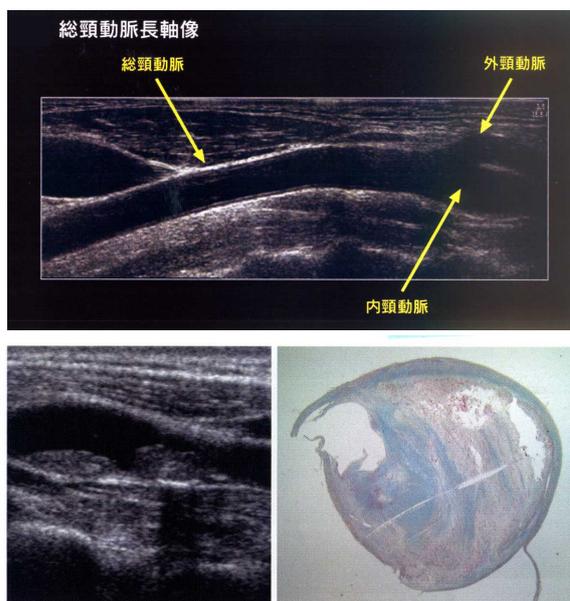
図(右下)は、頸動脈の分岐部を示します。

TIAの状態(中段・左)を放置すると一次血栓上で、血液凝固因子がさらに活性化され、フィブリン線維が形成され、フィブリン線維の網が、一次血栓を覆って、血栓を強化し、二次血栓が形成されます(中段・右)。

さらに血栓の一部がはがれて末梢の動脈を閉塞し「脳梗塞(脳塞栓)」を引き起こします(下段・左)また、同部位が血栓により閉塞されることもあります(下段・右)。



図(左上)は、頸部の超音波検査の正常例です。
図(左)では、超音波検査で内頸動脈分岐部に動脈硬化所見が認められ(左)、右はCEA(後述)による同部位の摘出標本の断面写真です。
血管の内膜が動脈硬化により肥厚し、血管腔が狭くなっています。



TIAの治療:

TIAの時点で気づいて、すぐに治療を開始すれば、脳梗塞を予防できる可能性があります。早期に治療を始めた場合、脳梗塞の発症を3分の1(12%~4%)に減らせるという報告があります。

- ・非心原性TIAの場合：(<パアスピリン>、<ワファリン>、<プレバックス>、<プレタル>、<パナルジン>等による) 抗血小板療法
血小板の働きを抑えることにより血栓形成を予防します。
- ・心原性(心臓でできた血栓による)TIAの場合：
(<ワファリン>、<プラザキサ>等)による抗凝固療法
心臓での血栓の形成を抑えます。
- ・高度の頸動脈狭窄症がTIA症状に関係している場合の治療：

CEA(頸動脈内膜剥離術)：**carotid endarterectomy**(図右)

変性・肥厚した内膜を取り除く手術です。

CAS(頸動脈ステント留置術)：**carotid artery stenting**

大腿動脈からカテーテルを挿入し、狭窄血管を拡張しステントを留置します。



図は、「Newton 11 2012」、「The Ciba Collection of Medical Illustration, Volume 1 Nervous System」(CIBA) DIA>、「日本赤十字社医療センター」ホームページ等から引用しました。

この「診療所だより」や診療についての御意見・御要望などをお気軽にお寄せ下さい。
これからの参考にさせていただきます。

編集・発行： 勝山諄亮

勝山診療所

〒639-2216 奈良県御所市343番地の4(御国通り2丁目)